

耐震診断結果の見方

● 耐震診断結果【例】

建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果			安全性の評価 (I, II, III)	耐震改修等		備考
				I_s/I_{S0}	$C_{TU} \cdot S_D$	0.40		内容	実施時期	
〇〇〇〇〇	〇〇区 1-1-1	5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	I_s/I_{S0}	1.09	$C_{TU} \cdot S_D$	0.40	III		
〇〇〇〇〇	〇〇区 2-2-2	5-6 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	I_s/I_{S0}	1.00	$C_{TU} \cdot S_D$	0.60	III	耐震改修	平成〇年〇月完了

● 耐震診断結果義務付け対象建築物の耐震診断の結果の公表について(技術的助言)【抜粋】

耐震診断の方法	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
5-6 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{S0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$	左右以外の場合 $1.0 \leq I_s/I_{S0}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{S0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$	左右以外の場合 $1.0 \leq I_s/I_{S0}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

- ① 耐震診断結果の「耐震診断の方法の名称」を確認し、技術的助言の表の中から同じ「耐震診断の方法」を探します。
- ② 耐震診断結果の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」の記載の数値を確認し、表右側の数値と照らし合せます。
- ③ 照らし合せた結果、安全性の評価 (I、II、III) が決まります。